

27 「杉山真伝流」の継承者たち

——江戸中期鍼灸術の精粹・杉山真伝流を完成・

継承した人々

大浦宏勝・花輪壽彦・石野尚吾

【前言】

平成十五年一月十九日、墨田区千歳一丁目にある江島杉山神社において新年会が催され、席上初めて杉山検校遺徳顕彰会所蔵の『杉山真伝流』全巻および巻物『目錄卷』『皆伝之巻』が公開された。その内容および伝授の経緯を調査した結果、真伝流の完成・継承に関わった人々が少しずつ明らかになってきた。今回はその中間報告である。

【杉山真伝流を完成させた人々】

①杉山和一・初代総検校(將軍綱吉侍医)

「管鍼術の祖」と言われるが、その著作『療治之大概

書』『撰鍼三要集』『医学節用集』には管鍼の記載がない。しかし、『真伝流中之巻第一』は管鍼術の総集編とも言える部分であるが、和一はその撰者である。

②三嶋安一・二代目総検校(幕府医官)

真伝流形成期である「元禄六年」当時の鍼治学問所の学頭であり、『杉山真伝流鍼治手術詳義』の述者でもあるが、管鍼術を駆使した八十五病証の治法を述べた『真伝流中之巻第二』の撰者でもある。

③嶋浦和田一・三代目総検校(幕府医官)

『真伝流』全巻を通じての撰者であり、流儀としての真伝流の完成者でもある。「中之巻序」を記載した時期は「元禄六年十一月二日」とある。三嶋・嶋浦ともに和一の高弟である。

④和田春徹直秀(幕府医官)

嶋浦和田一の嫡男であり、和田一引退後、幕府医官を継ぎ、鍼治学問所の管理も引き継いだ。晴眼者であり、流儀書『真伝流』の完成に協力していたものと考えられる。

【幕末〜昭和初期の「真伝流」継承者たち】

⑤ 和田春孝忠順（幕府医官）

和田春徹直秀より、春長正直、春長正胤、春長正定、春孝忠順と四伝する。『鍼治由来』によれば「門人、無慮千有余人」と家技を再興し繁栄した。弘化五年（一八四八）一月、武蔵野検校に授けた『目錄卷』にて、春孝は「従紀河辺多免麻呂五十八代目、東都行鍼御医官」を名乗っていた。

⑥ 和田春徹正長

春孝の子。京大富士川文庫所蔵『選鍼三要集』の序には、「文久三歳癸亥春二月 従紀河辺多免麻呂五十九代 東都行鍼 御医官 楠氏 和田春徹橘正長謹誌之」とある。顕彰会所蔵の『真伝流表之巻第五』に「正長記 春徹（印の書写）」とあるのは、この原本が彼の写本であったことを示す。

⑦ 小野塚樂山秀顯

顕彰会所蔵の『真伝流』全巻の伝授者であり、「紀の河辺多免麻呂より六十代目」。正長の直弟子で家元を継いだ人物と思われる。「正長記」本を再筆写した人物で

あろう。

⑧ 馬場美静、鈴木憲静

馬場美静氏は安政二年（一八五五）十一月二日生れ。旗本の臣・馬場鏖五郎の嫡子だが、八歳の時、麻疹を病み失明。初め藤浪検校に、後、小野塚樂山に就き鍼術の奥義を学び、明治十一年十二月に『真伝流』全巻および「六十一代目」を継承。昭和十二年二月十四日死亡、享年八十三歳。

鈴木憲一氏は、馬場氏の愛弟子。「六十二代目」を継いだ。顕彰会の常務評議員として活躍。昭和十二年四月四日に馬場氏の秘蔵書を顕彰会に寄贈した。

⑨ 森田蒿英、吉田弘道、大貫伊太郎

この三名は、杉山報恩講より顕彰会草創期の代表的労者であるが、昭和三年に杉山真伝流保存会を組織し、馬場氏の秘蔵書『杉山真伝流』を謄写に付した貢献者。その後昭和初期に、活発に杉山真伝流が研究され、鍼灸学校の教育にも管鍼法や代表的な手技が取り入れられてゆくが、その端緒はこの快挙にある。

（北里研究所東洋医学総合研究所）